

平成29年度  
社会福祉法人 高知小鳩会事業報告書

1 役員構成

1) 理事

理事長 南 守

理事 門谷 良久 南 幸子 岩城 雅人 井上 朋子 楠瀬敬兒郎

2) 監事 山下 洋子 神崎 正志

3) 評議委員 大倉 三洋 三谷 隆彦 矢野 泰彦 友永 義信 山本 純史  
福留 章夫 前田 正稔 太田 敏敬

2 平成29年度事業実績等

1) 高知県委託事業「障害児等療育支援事業」 \* 延べ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
外来	4	2	5	5	7	6	3	2	4	3	4	3	48
巡回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	2	5	5	7	6	3	2	4	3	4	3	48

平成29年度 委託料67,500円

2) その他支援事業 \* 延べ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
短期入所事業(指定事業)	67	76	72	58	51	78	94	68	87	52	40	41	784
在宅支援事業(法人単独) * 宿泊, 日中ショート等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 その他

平成29年6月29日、旧理事長の福井昭が名誉会長に就任した。

4 平成29年度決算 ※ 収支決算書参照

# 平成29年度あじさい園事業報告書

## 1 事業概要

### (総括)

あじさい園が開設し22年が経過。設備の老朽化に伴い、毎年部分的なリフォームは行ってきたが、本年度は主に入所部本館の比較的大規模な修繕及び、防犯対策の強化と安全配慮を目的とした施設整備を行なった。

建具、雨漏りの修繕、リビングのカーペットの張替え、送水ポンプの交換、別館男性棟リビング照明のユニット交換、階段の滑り止め設置、高知市の補助を受けて防犯カメラの増設、人感センサーの設置等を行ない、利用者がより安心安全で快適な生活が営めるよう努めた。

利用者支援に関しては、職員間のチームワークや支援のあり方について見直しを行い、ユマニチュードを柱とした「人をひととして大切にすること」という原点に立ち返り、より良い支援に向けての方向性を模索した。

5月27日(土)にNPO法人口から食べる幸せを守る会理事長(摂食嚥下障害看護認定看護師)小山珠美氏をお招きし、高知県立大学にて高知小鳩会と高知県立大学健康長寿センターとの共催で「高齢社会で食べ続けられる支援を包括的に進めていくために～食事介助スキルを高めよう～」というテーマでの講演(関係者約200名参加)と、あじさい園利用者2名に協力を依頼した実践研修(法人職員約30名参加)を企画、開催した。

又これを機に、再度、8月9日(水)小山氏と同法人副理事長、竹市美加氏をあじさい園にお招きし、「心地良く、安全に「食べる」ための食事支援」をテーマに園内研修を行なった。摂食嚥下機能に課題のある利用者中心に、根拠に基づく正しい食事介助の技法を指導していただくことで、介護職としての専門性とプライドの向上にも繋げることができた。

## 2 法人サービス理念

1) 「できるだけ普通に、可能な限り特別に」をサービスの基本とします。

施設を地域の一単位(家庭)と考え、一般社会と比較されるような特別な生活環境ではない、いわゆる「普通」感覚をもちながら、個別のニーズには可能な限り「特別」で手厚いサービス提供をすることを目指した。

2) 利用者に心地よい援助技術の習得に努め、心は常にアマチュアであろうとします。

職員は介護等の自主研修等とおして介助、支援技術の習得に努めた。又、専門性を高めると共に、アマチュアであった時のような本来の「福祉の精神」が失われることのないよう職員教育を行った。

## 3 基本的運営理念

1) 家庭の代替機能、補完機能を第一義としない。

保護者と施設がそれぞれの役割を果たせるような関係づくりをし、利用者が家庭から遊離しないような取り組みを継続して行った。

2) 幅広い福祉システム作りの核としての機能と目的を持つ。

施設の所有するサービスの有効活用を目指し、短期入所、相談支援事業と連携し在宅知的障害者の支援にも努めた。

3) 託し合える関係を保持する保護者たちが、施設と両輪となり「親の視点」で運営する。

利用者が何を望んでいるのかを把握するために、「親の視点」をおして保護者と施設が連携を保ちながらの利用者サービスに努めた。

## 4 運営方針

1) ノーマライゼーションの原則

障害を疾病や発達障害としてではなく、個々の特徴として位置づけ、日常生活の上で支障となる面は職員が支援を行い、個々の障害の特徴や支援度で分けることなく可能な限り全体の中で生活ができるように努めた。

2) 個別支援の原則

必要外の集団支援は行わず、個々の特徴やニーズに応じた個別計画を作成し援助を行なった。

3) 家族・地域・施設連帯の原則

可能な限り週帰宅を実施し、家族から遊離することがないように努め、月の第3日曜（8月は除く）に保護者会を開催し家族と施設の連携を深めた。施設も地域の一家庭という考え方のもと、自然な形で地域住民との交流ができるよう配慮した。

4) 利用者と職員は、指導「する・される」の関係からより良い生活の受益と提供の原則

どうすればより良い生活が提供できるかが法人及び職員全員の目標であり、職員会議等で主たるテーマとしその実践に努めた。

5 利用実績

1) 生活介護（定員52名；{契約者数59名：男34名、女25名}）

平均障害支援区分5.6 開所時間午前9時から午後4時

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用実績	1048	1095	1031	1062	1035	1017	1064	1024	1068	1035	876	1018	12,373
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
平均利用者数	35.0	35.4	34.4	34.3	33.4	33.9	34.4	34.2	34.5	33.4	31.3	32.9	33.9

2) 施設入所支援（定員52名；{契約者数50名：男28名、女22名}）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用実績	1481	1516	1473	1496	1482	1437	1474	1421	1376	1391	1300	1443	17290
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
平均利用者数	49.4	48.9	49.1	48.3	47.8	47.9	47.6	47.4	44.4	44.9	46.5	46.6	47.4

6 平成29年度重点課題

1) 職員（人材）の安定的確保と定着

- ・現場実習の受け入れ  
高知福祉専門学校（6名） 龍馬看護ふくし専門学校（2名） 高知学園短期大学（1名）
- ・福祉、介護就職フェア等への参加  
8/12 福祉人材センター主催 2/15 ハローワーク主催
- ・福祉系大学、専門学校への求人の拡大（約10校）

2) 職員の資質の向上

- ・定例研修の充実  
研修担当を幹部職員が研修計画を立案。企画内容を検討することで充実を目指した。
- ・外部講師による研修の開催（事業概要参照）  
NPO法人 口から食べる幸せを守る会  
理事長 小山珠美氏 副理事長 竹市美加氏（摂食嚥下看護 認定看護師）

3) 南海大地震対策の強化

- ・定例研修と明け訓練でマニュアルの確認と実践的訓練を継続的に行なった、

- ・ 備蓄物品の整備
- 4) 本館、別館を活かしたユニット支援の再構築
  - ・ 本年度も女性棟生活支援員が確保できず、本館のみでの支援を行なった。
- 5) 高齢化対策としての支援技術の向上と環境整備
  - ・ 摂食、嚥下機能の低下に伴う支援技術の習得と、誤嚥防止対策としての食事場面の安全性確保する為の食環境の整備を行なった。

7 運営資金

収支計算書等参照

8 平成29年度職員研修

年間計画

4月	・ あじさい園の防災についての基礎知識	10月	・ あじさい園のリスクマネジメント①
5月	・ 生活支援について	11月	・ あじさい園のリスクマネジメント②
6月	・ 食事支援について	12月	・ 平成29年度法人職員資格試験
7月	・ ユマニチュード①	1月	・ 個別支援計画作成の留意点
8月	・ ユマニチュード②	2月	
9月	・ 摂食・嚥下の基礎知識	3月	・ 権利擁護・虐待について (人を大切にすること)

その他

- ・ 毎月各職員1回程度、心肺蘇生法と誤嚥時の対応方法の習得と防災時の対応訓練を行なった。
- ・ 5/27、高知小鳩会、高知県立大学健康長寿センター共催の研修に参加した。  
「高齢社会で食べ続けられる支援を包括的に進めて行くために～食事介助スキルを高めよう～」  
講師：小山珠美氏（NPO法人口から食べる幸せを守る会 理事長）
- ・ 8/9、「心地良く、安全に「食べる」ための食事支援」を題材に法人内研修を行なった。  
講師：小山珠美氏・竹市美加氏（NPO法人口から食べる幸せを守る会 副理事長）

9 職員構成（職種・氏名）

注）常勤職員（時短職員含む） △非常勤

（平成30年3月31日現在）

職名	管理者	サビ管 兼施設長	法人事務長	総務部長	総務課長	管理栄養士 総務係長	相談 支援員	支 援 職 員					顧 門 医	合 計	調 理 部 門	
								支 援 課 長	支 援 課 係 長	生 活 支 援 員	看 護 課 係 長	看 護 師				支 援 職 員 合 計
男	1		1		1		2	1	2	14			17	△1	22 △1	業 務 委 託
女		1		1		1		1	2	15	1		19		22	
計	1	1	1	1	1	1	2	2	4	29	1		36	△1	44 △1	

(平成30年3月31日現在)

職 種	氏 名	
管 理 者	南 守	
サービス管理責任者 (施設長)	井上 朋子	
顧 問 医	橋詰 宏(精神科)	
事 務 員 (総務部)	門谷 良久(法人事務長) 南 幸子(部長) 楠瀬 敬兒郎(課長)	
管理栄養士	森岡 美樹(係長)	
相談支援員	中森 勇人(課長) 岡村 和哉(係長)	
支 援 職 員	看 護 師 (看護課)	上田 友紀(係長)
	男 性 棟	谷本直哉(課長) 中山貴之(係長) 明神裕志(係長) 宮脇淳也 西村卓也 永野孝洋 尾崎健人 長山佳樹 松山由宇馬 坂本昌彦 川村知也 渡邊賢人 柿内翼 近森大地 徳弘圭祐 高橋佑輔 石川誠司 (計17名)
	女 性 棟	中森裕子(課長) 森澤清恵(係長) 渡邊寛子(係長) 矢野由美子 玉川美穂 池添詩織 竹村侑子 西村佐和子 里見優佳 中畠陽香里 西田裕美 楠瀬綾 石川かおり 堅田優子 岩本千亜紀 吉村未希 浜田紗妃 和田広美 (計18名)

10 生活支援

1) 給食(外部委託:(有)モリグリーンフーズ)

食事内容

平均カロリー(/日)	1,769kcal
平均品数(/日)	朝/6.3品 昼/4.5品 夕/4.6品
食事時間	日課参照

給食費用

実延人数	入所 17,384人	通所 1,729人
材料費	15,031,815円	
業務委託費	19,180,800円	

\*利用者負担は材料費650円、業務委託費930円。超過分はあじさい園が負担しより質の高い食事を提供した。

衛生管理

検 査・点 検	結 果	費 用
検 便	異常なし	11,016円
貯水槽清掃		
厨房内清掃	良好*害虫駆除 大進	49,680円
浄化槽清掃	良好	424,000円

器具什器費

食器、調理器具	316,791
---------	---------

## 2) 健康管理

顧問医、医療機関との連携を図り、利用者の健康状況の把握と疾病の早期発見に努めた。又、必要に応じて感染対策委員会を開催し、予防対策の検討を行なった。

歯科健診	6/12	広田歯科医院（園内）
歯科受診	毎週火	広田歯科医院
口腔ケア	隔月	広田歯科医院（園内）
内科健診	7/20	横浜ニュータウン内科（園内）
一斉健康診断	10/12	きんろう病院（園内）
検診フォロー	随時	横浜ニュータウン内科
藤戸受診	定期	藤戸病院（園管理者対象）
訪問診療	月2回	あおぞら診療所（契約利用者対象）
インフルエンザ予防接種	11/17	横浜ニュータウン内科（園内）

## 3) 環境整備

園庭、裏山の整備、清掃、整理整頓を心がけ環境美化に努めた。

## 4) 防災計画

*総合消防訓練		: 5/18・11/13（高知市南消防署）
担当	園長：総指揮 / 事務員：連絡 / 生活支援員：救助 / その他職員：報告	
*南海大地震対策訓練		: 7/10、9/29、12/5、2/5（全職員）
*南海大地震対策委員会		: 随時、幹部会にて報告

- ・年2回の消防立ち入り訓練（5/18、11/13）火災を想定し避難誘導を行った。実際に消火器、散水栓を使用し火災時に使う手順を学んだ。
- ・自主防災訓練 年4回（7/10、9/29、12/5、2/5）
- ・園内で行う訓練では地震を想定し、避難場所の確認や使用物品の使用方法を学習した。同じ訓練を続けて行うことで一人ひとりの職員の防災意識や、知識、技術の向上につながった。
- ・外部研修として、高知県知的障害者福祉協会の防災委員会主催の研修に参加し、専門家による講演や他施設との意見交換をとおして防災の知識を深めた。

### 1.1 日中活動支援

#### \*「いきがい班」

わくわくクラブ、スポーツ、創作、ストレッチの4グループに分かれ活動を行なった。利用者一人一人にあった活動を提供する為に、一つのグループに固定せず多様な活動へ参加できるように配慮した。

#### 1) スポーツ

体育館、グラウンド、園周辺の散歩を中心に行い、しっかり体を動かす活動や、しっぽ取りゲーム、魚取りゲーム、風船バレー、ドッチボールといった楽しみながら体を動かせる活動を行った。当日一人がリーダーとなり、活動の前後に挨拶を行うことでメリハリのある活動時間とし、活動内容を工夫することで、楽しめる活動となるように配慮した。

#### 2) 創作

季節の製作物や手作り紙粘土、塗り絵等を行い、出来あがった作品は掲示している。また、行事前には製作物作成の手伝いを行い、行事に対する期待感が持てるよう配慮した。創作活動以外にも買い物外出やボウリング等も行い、楽しみを持って活動に参加出来るようにした。

### 3) ストレッチ

健康面の配慮が必要な利用者が多い為、個々の生活リズムに合わせ活動を設定した。天候の良い日は、近所の種間寺や公園への散歩を行い、園内での活動はマットを使用し、同じ姿勢になっている体を伸ばしほぐす等のストレッチ運動や、季節に合わせた創作活動、庭で花を摘み食堂のテーブルを彩りよく飾った。また、こぼと作業所に訪問して交流を図ったり、青龍寺へ外出し、普段と違う雰囲気散歩を楽しんだ。

### 4) わくわくクラブ

午前中は散歩に出かけ、午後からは工作、園芸、園内清掃、行事準備のお手伝い、買い物外出等を行った。毎週月曜日に週間予定を話し合い、利用者考案の活動を行うことで、楽しみをもって参加出来るように配慮した。

### 5) その他の活動

あじさいカフェ、バスドライブ、外出散歩、園芸等を合同で行っている。また、職員の個性を活かした企画等も行い、楽しめる活動を提供している。

## \* 「生産活動班」

生産活動を希望する入所利用者については、第二あじさい園の生活介護を利用してミニトマト、ブルーベリー栽培、木工等の班に所属して日中活動を行った。

(第二あじさい園事業報告参照)

## 1 2 行事・その他の活動について

### 1) 季節行事

行事の内容によっては積極的に保護者や地域住民（納涼祭、クリスマス会等）の方々への参加を促し、利用者と共に季節折々の行事を楽しんだ。

行 事	日	備 考
5月行事 端午の節句	5/2 (火)	第二合同
7月行事 七夕	7/7 (金)	第二合同
納涼祭	8/18 (金)	第二・こぼと作業所・他関係者 約200名
9月行事 月見	9/8 (金)	第二合同
スポーツフェスティバル	10/20 (金)	第二・こぼと作業所 約120名
クリスマス会	12/22 (金)	第二・こぼと作業所・他関係者 約110名
冬期帰宅	12/27 (水)	～H30/1/4 (木)
新年会	1/12 (金)	第二合同
節分&餅つき	2/2 (金)	第二合同
3月行事 ひな祭り	3/2 (金)	第二合同

### 2) 誕生会

利用者個々の誕生日を予定表で知らせると共に、食事時間や夜の余暇時間にケーキやプレゼント等を準備して「特別な日」として個々に祝う誕生会を行った。

### 3) 外出

主に各グループ単位で外出を企画し、一日外出を実施した。

日	外 出 先	グループ等
4/14 (金)	鏡野公園 (一日外出)	合同
5/23 (金)	四万十オートキャンプ場ウエル花夢 (一日外出)	合同
9/15 (金)	グリーンパークほどの (一日外出)	合同
10/25 (金)	ゆとりすとパークおおとよ (一日外出)	わくわくクラブ

#### 4) 余暇活動

土日祝日に在園されている利用者と余暇活動を行なっている。週帰宅がない利用者の方が楽しめる活動を提供出来る様に努め、バスドライブや好評であるカラオケ大会等を行った。また、職員個人の持ち込み企画も取り入れ、利用者の期待感を膨らませるよう配慮した。

#### 5) 園芸活動

5月に生姜を植え、秋に収穫。園で提供される食事の材料として使用している。スノコ前や別館への渡り廊下の花壇には宿根草を植え、長年楽しめるようにした。また11月にはわくわくクラブとチューリップを植え、春にはきれいな花を楽しんだ。

#### 6) スポーツ活動

5月28日(日)、10月15日(日)第19回障害者スポーツ大会へ出場する。(ボウリング:男性:14名、女性:4名、フライングディスク:男性12名、女性:9名、卓球:女性1名)

### 1.3 広報

#### 1) あじさい新聞

あじさい園、第二あじさい園、こぼと作業所の行事や活動の様子などの写真をメインに紹介し、利用者、保護者、職員が日々の出来事や情報を共有できるよう、毎月のあじさい会で配布した。(約75部)

#### 2) ホームページ

当法人についての概要、施設紹介、活動内容等を掲載し、職員の個性を活かしたブログで、利用者の日々の様子や園内の情報などを公開した。また、毎日の食事メニューを写真付きで掲載し、保護者からも好評を得た

### 1.4 その他

## 平成29年度 あじさい園障害児者相談支援事業所 事業報告書

### 1 事業の運営

主に、高知市在住の知的障害(児)者が居宅及び事業所等において必要且つ適切なサービスが受けられるよう、可能な限り親身で手厚い支援をすることを目標とした。

29年度末の契約者数は、障害児74名、障害者179名(計253名)となり、ひと月当たり約19名の実績(表1)を上げている。これは、相談支援員2名体制では相当量の業務となるが、高知市の委託事業(表2)を合わせても、依然として収支バランスがとれない状況が続いている。30年度以降、今後の相談支援体制及び事業展開についての見直しが必要である。

### 2 職員構成

職員数 3名

職員構成 管理者 1名(兼任) / 相談支援員 2名

### 3 事業内容及び事業実績

#### 1) 障害福祉サービス等の利用計画の作成

・計画相談支援(者)

「サービス利用支援」及び「継続サービス利用支援」

・障害児相談支援(児)

「障害児支援利用援助」及び「継続障害児支援利用援助」

表1 \* ( ) は継続支援

月 児者	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
障害児	4 (0)	5 (1)	7 (0)	2 (4)	7 (0)	8 (0)	8 (0)	7 (0)	4 (1)	8 (0)	7 (0)	1 1(0)	78 (6)
障害者	10 (1)	13 (2)	14 (0)	14 (0)	7 (1)	15 (0)	3 (1)	11 (2)	16 (0)	11 (0)	15 (0)	9 (1)	138 (8)
計	14 (1)	18 (3)	21 (0)	16 (4)	14 (1)	23 (0)	11 (1)	18 (2)	20 (1)	19 (0)	22 (0)	20 (1)	216 (14)
総実績													230件

#### 2) 障害福祉サービスの支給決定に係る調査業務(高知市委託事業)

表2

月 児者	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
障害児	4	4	6	3	6	6	7	7	5	8	7	7	70
障害者	8	11	13	13	5	12	3	9	12	9	14	11	120
計	12	15	19	16	11	18	10	16	17	17	21	18	190件

### 4 運営資金

平成29年度収支決算書参照

## 平成29年度 生活介護事業所第二あじさい園事業報告

### 1 事業概要

生活介護事業を実施し、法人サービス理念、基本的運営理念、運営方針を基盤とした事業計画及び、利用者個々の特性やニーズに応じた個別支援計画を作成し、計画的且つ一貫した支援ができるように努めた。又、新商品の開発や販路拡大にも取り組んだ。

営業日は原則月曜日から金曜日。営業時間は9:30～16:00(送迎時間を除く)として運営した。

### 2 法人サービス理念

- 1) 「できるだけ普通に、可能な限り特別に」をサービスの基本とします。

施設を地域の一単位と考え、一般社会と比較されるような特別な生活環境ではない、いわゆる「普通」感覚をもちながら、個別のニーズには可能な限り「特別」で手厚いサービス提供をすることを目指した。

- 2) 利用者心地よい介助技術の習得に努め、心は常にアマチュアであろうとします。

職員は介護等の自主研修等をとおして介助、支援技術の習得に努めた。又、専門性を高めることによって、アマチュアであった時のような本来の福祉の精神が失われることのないよう職員教育を行った。

### 3 基本的運営理念

- 1) 家庭の代替機能、補完機能を第一義としない。

保護者と施設がそれぞれの役割を果たせるような関係づくりをし、利用者が家庭から遊離しないような取り組みを継続して行なった。

- 2) 幅広い福祉システム作りの核としての機能と目的を持つ。

法人の実施するサービスの有効活用を目指し、短期入所、相談支援事業と連携し、施設利用者支援に努めた。

- 3) 話し合える関係を保持する保護者たちが、施設と両輪となり「親の視点」で運営する。

利用者が何を望んでいるのかを把握するために、「親の視点」をとおして保護者と施設が連携を保ちながらの利用者サービスに努めた。

### 4 運営方針

- 1) ノーマライゼーションの原則

障害を疾病や発達障害としてではなく、個々の特徴として位置づけ、日常生活のうえで必要となる面は職員が支援を行なった。また、可能な限り個々の障害の質や程度で区分する事も行なわず全体の中で生活ができるように努めた。

- 2) 個別支援の原則

必要以外の集団サービスは行なわず、個々の特徴やニーズに応じた個別計画を作成し支援にあたった。

### 3) 家族・地域・施設連帯の原則

第3日曜日（8月は除く）に保護者会をもち保護者と施設の連携を深めた。また、夕涼み会・クリスマス会・生産物の販売などを通じての地域交流を図った。

### 4) 利用者と職員は、指導「する・される」の関係から、作業環境を含んだより良い生活の受益と提供の原則

利用者はより良い環境を受益する権利があり、職員はより良い環境を提供する義務を持つという認識に立って活動をする事ができた。

## 5 平成29年度重点課題

### 1) 豊かな生活の創造

- ・利用者の個々のライフステージに沿った支援内容の提供に努めた。
- ・健康面への配慮と余暇的活動内容の提供に努めた。

### 2) 職員（人材）の安定的確保

- ・ホームページ等 SNS を活用し、法人の情報発信を行った。

### 3) 職員の資質向上

- ・ユマニチュードの技法を支援技術の基本とするよう、集中して勉強会を実施した。
- ・摂食支援技能を高める事を目的に、外部講師による研修を開催した。

### 4) 南海大地震対策の強化

- ・震災時の支援体制の確立と支援技能の向上を目指した防災訓練を実施すると共に、被災地の視察など防災研修会にも積極的に参加した。

### 5) 法人内事業所の連携強化

- ・販売活動を通して、法人内事業所の連携強化を図った。

## 6 平成29年度職員研修

4月	防災対策の基礎知識	10月	法人リスクマネジメント①
5月	生活支援について	11月	法人リスクマネジメント②
6月	食事支援について	12月	H29年度法人職員資格試験
7月	ユマニチュード①	1月	個別支援計画作成の留意点
8月	ユマニチュード②	2月	
8/9	高齢社会で食べ続けられる支援を包括的に」講師：小山珠美氏	3月	権利擁護・虐待について (人を大切にすること)
9月	摂食・嚥下の基礎知識		

- ・毎月各自1回心肺蘇生法の習得と災害時の対応訓練を行った。
- ・5月27日に高知県立大学と共催で、小山珠美氏（NPO法人 口から食べる幸せを守る会理事長）を講師に迎え「高齢社会で食べ続けられる支援を包括的に進めていくために～食事介助スキルを高めよう～」をテーマに研修会を開いた。
- ・8月9日に小山珠美氏・竹市美加氏（NPO法人 口から食べる幸せを守る会副理事長）を講師に迎え「高齢社会で食べ続けられる支援を包括的に」をテーマに研修会を開いた。

※外部研修は平成29年度外部研修参会一覧参照

## 7 具体的運営

### 1) 生活支援

利用者個々の生活様式に応じた生活援助を目的とし、どうすれば最も快適な生活ができるかを常に模索し、利用者の自己実現を図れるよう支援した。

#### (1) 給食

食事内容		給食費用		
平均カロリー	627Cal	実延人数	4,797人	(342円/1食あたり)
平均食数	4.5品	食材費	1,641,866円	
食事時間	日課参照	業務委託費	2,073,600円	

#### 衛生管理費

検査・点検	結果	費用
検便	異常なし	
浄化槽掃除	異常なし	127,225円

#### 器具什器費

食器	16,734円
----	---------

### 2) 健康管理

利用者の健康状況の把握と疾病の早期発見に努め、感染予防については過去の教訓を生かしながら対策に取り組んだ。又、嘱託医、医療機関との連携を常に保った。

歯科検診	6/12	広田歯科(園内)
歯科受診	毎週火	広田歯科
口腔ケア	隔月	広田歯科(園内)
内科検診	7/20	横浜ニュータウン内科(園内)
一斉健康診断	10/20	きんろう病院(園内)
検診フォロー	随時	横浜ニュータウン内科
藤戸病院受診	定期	藤戸病院
インフルエンザ予防接種	11/9	横浜ニュータウン内科(園内)

### 3) 環境整備

施設内の美化と利用者身辺の整理整頓に努めた。

### 4) 防災計画

*総合消防訓練：5/1811/13(高知市南消防局)	
担当	園長：総指揮 / 事務員：連絡 / 支援員：救助 / その他職員：報告
*南海地震対策訓練：7/10・9/29・12/5・2/5 通報訓練・一時避難場所設置訓練	
*南海地震対策委員会：毎月幹部会にて報告	

8 日課

時 間	活 動 内 容
8 : 3 0	送迎車出発
8 : 3 0	始 業
9 : 4 5	作業開始
1 0 : 5 0	休 憩
1 1 : 4 5	昼食開始
1 3 : 0 0	作業再開
1 4 : 1 5	休 憩
1 4 : 3 0	作業再開
1 5 : 1 5	作業終了・掃除・フライングディスク練習（希望者）
1 6 : 0 0	送迎車出発
1 7 : 3 0	終業

9 職員構成

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

職名	管理者	施設長 (サービス管理責任者)	事務員 (兼務)	管理栄養士 (兼務)	直接処遇職員					医師	合計	調 理 部 門
					支援課長	支援係長	支援員	看護師 (兼務)	支援員合計			
人数												
男	1	1			1	1	1(1)		4(1)		6(1)	業務委託
女			1	1			2	1	3		5	
計	1	1	1	1	1	1	2(1)	1	7(1)		11(1)	

注 ( ) は臨時職員再掲

②職員名及び担当

職 種		氏 名
管 理 者		南 守
サービス管理責任者（施設長）		岩城 雅人
医 師		
事 務 員		井田 陽子（兼務）
管 理 栄 養 士		森岡 美樹（兼務）
支 援 員	看 護 師	
	男性	上田 友紀（兼務） (課長) 矢野 雅章 (係長) 時田 祐司 猪原 佑介 西岡 勝彦 (4月～9月) / 岡林 拓也 (10月～3月)

		楠瀬 隆弘 (9月～:週4日、1日5時間)
	女性	仁井田 千恵 井上 由利

#### 10 運営資金

運営資金は、給付費でまかなった。

(収支計算書等を参照)

#### 11 施設利用状況の推移(定員 20 名:基準開所日数 269 日, 利用人数 5,380 名)

項 目	延数	%	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約者数	240	100	21	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	19
利用者数	4581	85	402	389	412	370	390	381	406	386	345	355	355	383
開所日数	245	91	20	21	22	20	22	20	22	20	19	19	19	21

平均年齢：男性-48.7歳（11名） 女性-41.0歳（8名）

総計平均年齢：45.5歳（19名）（3月31日現在）

平均支援区分：4.8 基準人員配置人数：3.7人 ※2名の利用契約解除があった。

#### 12 会議

職員会・ケース会・個別支援会議・サービス担当者会議・作業内容検討会を適時実施した。

#### 13 活動・行事について

社会自立に目標をおく作業とともに、個々人に適した自立や生き甲斐に主眼を置いた活動も提供した。行事、余暇活動については、スポーツ大会参加や直販への参加活動なども取入れた。

#### I 作業別

##### 1) トマト作業

担当：時田

男性利用者6名、女性利用者6名(職員4~5名)が中心となってトマト作業を展開した。

[作業経過]

○トマトハウス(1056苗)11列植え 1列80~96苗植え (6穴植え)

定植：平成29年8月8日(ルネッサンス、フラガール、トマトベリー)

液肥：最初は、0.6~0.8 成長が進んでからはEC1.2~1.3を目安で設定。

**消毒回数**(平成29年4月~平成30年3月31日現在)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1回	3回	0回	0回	1回	4回	4回	1回	2回	1回	1回	2回

#### 使用農薬

- ・殺虫剤：チェス(2)
- ・殺菌剤：カリグリーン(5)
- ・殺虫殺菌剤：サンクリスタル乳剤(13)

・特殊肥料：メリット青 (1) メリット黄(2) メリット赤(3)

重油回数：7回 夜温設定 (11℃)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0回	1回	2回	2回	2回	0回						

○どんこハウス (1728苗) 18列植え (6穴植え)

定植：平成29年4月1日 (べにすずめ) 9列植え (6穴植え)

定植：平成29年8月12日 (ネネ) 18列植え (6穴植え)

液肥：最初は、0.6~0.8 成長が進んでからはEC1.2~1.3を目安で設定。

消毒回数 (平成29年4月～平成30年3月31日現在)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4回	4回	2回	3回	1回	2回	4回	2回	2回	1回	1回	1回

使用農薬

- ・殺虫剤：
- ・殺菌剤：トリフミン (1)、プロポーズ (1) エコピタ液剤 (1)  
セイビアーフロアブル20 (1)、ゲッター水和剤 (2) カリグリーン (6)  
ボトキラー (4)
- ・殺虫殺菌剤：サンクリスタル乳剤 (10)
- ・特殊肥料：メリット青 (4) メリット黄(3) メリット赤(3)

重油回数：7回、夜温設定 (11℃)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0回	1回	2回	2回	2回	0回						

○トマトハウス総収穫量 (平成30年3月31日現在)

4月	5月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
527.6 k	244.1 k	3.6 k	138.9 k	470.8 k	290.8 k	392.3 k	2068.0k

○トマトハウス割れ、傷

4月	5月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
246.9k	150.3k	1.4k	52.8 k	201.2 k	72.6k	102.8k	828.0k

トマトハウス傷

○どんこハウス総収穫量 (平成30年3月31日現在)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
387.2k	215.1k	125.0k	452.7k	200.2k	0	0	30.1k	380.4k	333.5k	433.6k
3月	合計									
616.8	3174.6 k									

○どんこハウス割れ、傷

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
39.7k	26.0k	13.9k	103.6k	42.9k	0	0	24.0k	158.4k	75.1k	47.6k
3月	合計									
36.7k	601.6k									

○29年度収穫量（3月31日現在）

トマトハウス：2068.0 k g（内売り物：1240.0 k g）

どんこハウス：3174.6 k g（内売り物：2573.0 k g）

**ネネ合計：2429.1 k g（内売り物1980 k g）**

**べにすずめ：538.6 k g**

**ルネッサンス：1612.1 k g**

**トマトベリー：362.9 k g**

**フラガール：299.9 k g**

**五種類合計：5242.6 k g**

過去の同時期の収穫量（参考資料）

23年度収穫量 2648.8kg（平成23年9月～平成24年3月）

24年度収穫量 2252.2kg（平成24年8月～平成25年3月）

25年度収穫量 3946.8kg（平成25年8月～平成26年3月）

26年度収穫量 3655.2kg（平成26年8月～平成27年3月）

27年度収穫量 5382.35kg（平成27年8月～平成28年3月）

28年度収穫量 4863.3kg（平成28年8月～平成29年3月）

○まとめ

今年度も夏場の栽培を行っていました。昨年度はネネの裂果率が高かったため、栽培品種をベニスズメを栽培してました。また、夏場に適した品種を検討するためにトマトベリーとフラガールの栽培も行いました。栽培場所は、どんこハウスの北側半分で行いました。

夏場の栽培状況は、6月の梅雨時期と真夏の高温多湿によって、灰色ススカビ病が全体に広がり、8月にはコナジラミが大量に発生しました。農薬散布等で対処しましたが、対応しきれず、予定より少し早く栽培を終了しました。

収穫した実の状態は、ベニスズメとトマトベリーの裂果率は低かったが、フラガールは半分程割れることがありました。また、3種類ともヘタ枯や果実の状態の良くないものが見られました。

冬場の栽培については、ネネ、フラガール、トマトベリー、ルネッサンスの4品種をトマトハウス、どんこハウスの両ハウスで栽培しました。また、海水を使用した栽培については、ルネッサンス3列、フラガール1列、ネネ1列をトマトハウスで行いました。

どんこハウスのネネは、育成当初から茎が割れていることや、苗が伸びる早さがバラバラな状態が見られていました。そのため、種苗会社さんに見ていただき、肥料過多とホウ素不足から来るメガネ病（生理現象）と教えていただいた。対処法としてホウ素の葉面散布を実施しています。トマトハウスの成長では、ネネがやはりどんこハウスと同様な状態になっていましたが、その他の品種については順調良く成長しました。

育苗環境では、弱めの殺菌剤や殺菌殺虫剤を小まめ散布することで、カビ等の発生をある程度防いでいます。しかし、冬場は冷え込みが強くハウスの開閉があまりできないこともあり、多湿環境が長時間続くことで2月頃から灰色ススカビがどんこハウスで大量発生しています。トマトハウスでは、フラガールが徐々に枯れていくことが見られえ、種苗会社さんに検査していただき、青枯れ病との診断が出ました。青枯れ病については対処法がなく、発生するとその都度苗を崩しました。

収穫に関して、ネネはメガネ病の発生や寒波の影響も考えられ、収量が前年度より少なく

、小さい物が多い状態でした。また、トマトハウスのルネッサンスについては、海トマトの栽培を増やしたことで、大量に取れ過ぎることが少なく、ある程度の収穫量で抑えることができました。フラガールは冬場は割れることが少なく、夏場より多く収穫できていました。

設備面では、5月にトマトハウスのビニールと内部の遮光ネットを全面張り替えました。また、天窗の開閉装置にグリスを注すなど少しメンテナンスを同時に行いました。炭酸ガス発生装置のセンサーも故障していたため、コントロールパネルごと取り換えて設置しています。どんこハウスでは、寒さ対策用の内部二重張りの張り替えを10月に行っています。

2月に冷え込みが強く、水道の配管が凍結していることがあり、それが原因でポンプに繋いでいる配管が破損し水か拭き出ることがありました。また、拭き出た水がボイラーと液肥ポンプにかかり、水濡れにより故障しました。今後も同じ様なことがおきる可能性もあるため、機械類に水が被らない場所へポンプを移動し、配管についても防寒カバーを取り付けました。

今後について、夏場のトマト栽培に適した品種を探すために、何品種か栽培してきましたが、ヘタが枯れることや病気が発生するなど適した品種を探すことができていません。また、ハウス内が高温で熱中症等の危険性や利用者さんの年齢による体力の低下も考えられます。この様に夏場の栽培はデメリットが多い状態であるため、来年度の夏場はブルーベリーの収穫に集中し、冬場のみ栽培することを予定しています。そして、今年度から栽培しているフラガールが電話で問い合わせがある程好調でしたので、来年度は栽培数を増やしたいとも考えています。

#### ○利用者さんの状況

全体的に作業を拒否する利用者さんは見られず、意欲的に参加されています。しかし、勝手に葉切りをしていることや自分の判断で作業を進めている利用者さんが何度か見られています。そのため、個々の作業を観察しその知らせる様にしていきます。また、夏場の高温で熱中症等の体調不良に気を配り、こまめに水分補給をすることと、確実に休憩をとっていただきます。

#### 2) 木工作業

担当：猪原

男性利用者6名、女性利用者3名(職員1~2名)が中心となって木工作業を展開した。

#### [作業経過]

今年度は、昨年度に製作した在庫が相当数あった為、急な注文に対しても素早い対応が出来ました。福祉ショップポピーや福祉交流プラザのふれあいショップの定期的な注文に対しても素早く対応しました。

ナイスハートバザールは、今年度は群馬県と島根県に出品をしました。両県ともほぼ完売に近い売れ行きでしたが、ナイスハートバザール以外は全体的に昨年度に比べて、売り上げは減少しました。障害者作品展においては、今年度木工製品のみ販売でしたが、例年以上の売り上げもあった為、継続しての出品をしていきます。埋蔵文化財センターからの火起し機と火切り板の注文が例年ある為、埋蔵文化財センターからの注文にも早期に納品出来る様にしていきます。

今年度より、職員が2名体制になったことにより、午後からは余暇的活動(塗り絵や折り紙)を希望される方に対して提供しています。午後からの余暇的活動に関してはほぼ定着でき

ているように思われ、利用者さんも楽しまれての参加が出来る様になったと思われます。また、午後の作業前に、木工作业メンバーの体力・機能維持を目的に運動（グラウンドでの散歩）を取り入れています。

#### （危機管理について）

今年度も大きな事故や怪我はありませんでした。木工機械の電源管理、ペティークワーク使用後の刃のチェック等は以前に比べできていますが、分電盤の蓋の閉め忘れや工具の片付けなどができていないことがある為、今後はいままで以上に気をつけていきます。

#### （展開）

昨年度より、木工作业が2名体制になったこともあり、以前に比べ利用者さん一人ひとりに対して関わりを多くもてるようになったと思われます。今後は、午後おこなっている余暇的活動（塗り絵、ビーズなど）の充実を図っていくことにより、余暇的活動に参加されている利用者さんにとって充実感の感じられる時間になればと思っています。

木工作业においては、昨年度の注文はほぼ前年度の在庫で対応したことにより在庫の数が少なくなっていますので、在庫の作成を中心に行っていきます。

### 3) 食品加工

担当：井上

男性利用者1名、女性利用者2名(職員3)が中心となって食品加工作業を展開した。

#### [作業経過]

製造回数は、生ブルーベリージャム1回、ブルーベリージャム23回、生イチゴジャム3回、イチゴジャム11回、トマトジャム2回、ドライトマト1回でした。

新しく始めた利用者は、食器洗いからはじめ、徐々に計量や製造に関わっていきました。その中でも衛生面には特に意識を持ってもらうよう努め、その都度アドバイスをを行う事で徐々に意識も付いてきていました。準備、製造、片づけに至る一連の作業に関しては、過度の負担にならないよう配慮し指導を行いました。

ドライトマト作業に関わった利用者の方は昨年度同様、常時6名程度の方が作業に取り組みました。加工作業を行うにあたり、白衣、帽子、マスク、手袋着用を促し、手洗いと消毒の徹底も含め衛生面に注意を払うと共に、包丁を使用するため、安全面への配慮も徹底しました。

製造作業は月に2回の実施を基本としましたが、各店舗の在庫状況や急な大量注文の際は、その都度対応して実施しました。

#### [衛生管理]

製造担当者は、職員年3回(1.5.9)、利用者年2回(1.7)の大腸菌検査を実施しました。設備面の管理に関しては、冷蔵庫の室内清掃を定期的(5.11)に実施すると共に、ゴキブリ駆除剤の設置や定期的な清掃業者による清掃を行いました。また、排水に関してもパイプクリーナーを使用しての清掃の実施や、毎朝3分間水を流す事による排水溝の衛生管理を行いました。

物品の保管移管しては、害虫の繁殖防止のため、段ボール箱の使用を止めプラスチック箱への変更を行いました。

今後も定められた規制を守り怪我や火災等が出ないように安全対策を強化し食品加工作業に取り組みます。

[ジャム／ドライトマト種類別製造数]

ブルーベリージャム	729個	昨年比：+62個
イチゴジャム	581個	：-37個
シロップ漬け	56個	：+40個
ドライトマト	3.13kg	：-4.71kg

4) ブルーベリー栽培

[作業経過]

利用者職員とも他作業との兼務で栽培を展開した。

通常の栽培にはあまり手のかからない作物である為、必要時に1～2名の参加で栽培管理を行った。収穫に関しては人手を多く要するため、木工班にも参加してもらい、午前中に集中して収穫を行った。収穫期間は7/3～8/31の盛夏時であった為、熱中症対策など参加利用者の健康管理には気を配り、熱中症警報が出された日は高齢の方を中心に一部メンバーを本館の活動に参加してもらう対応を取った。

収穫したブルーベリーはトマト同様、保護者、量販店にて販売を行った。また、ブルーベリージャムの源材料としても活用した。総収穫量は前年比162Kgの増量となった。

本年度の収穫量—ティフブルー（164.7）・バルドウィン（184.1）・ノビリス（96.2）  
その他（40.6） 総収穫量（485.6Kg）

5) 販売活動

[作業経過]

今年度も各生産担当者と連携し、お客様や取引先との調整、販売に必要な情報収集などを行い第二あじさい園の商品の販促及び苦情処理を行いました。また今年度は、大きな動きとしてドライトマトの価格を今までの半値に改定しました。

【各販売店舗状況】

(サニーマートはるの市)

サニーマート六泉寺店、瀬戸店（JA高知春野管理店）へ、トマト・ブルーベリー・ドライトマト・各種ジャム・ブルーベリーシロップ漬けなどを出荷しました。

トマトやブルーベリーの生売りに関して、現在までの販売状況を見ても売れ行きは好調でした。特に今年度は、新たな品種の「フラガール」が売れ残りもほとんど無いくらいでした。全体的に見ても出品数の、トマトは約9割程度、ブルーベリーは約8割程度が売れました。

加工品に関しても、はるの市は好調に売れており、特に六泉寺店はサニーマート系列の中で一番の売上げがありました。

(サニーマート細井商事)

サニーマート細井商事管理店は、土佐道路東店、高岡店、あぞうの店、中万々店へ主に加工品を中心に出荷しています。昨年度後半、かなり売れ行きが落ちた南国アクシス店へ

の出荷は今年度はおこないませんでした。

昨年度に比べ、高岡店とあぞうの店の売れ行きが約5割り増となりました。

土佐道路店のみトマトやブルーベリーの生売りを出荷しました。売れ残りは無いものの、瀬戸店や六泉寺店に比べると、数はそれほど多く出せていない現状でした。

(サンシャイン太陽市)

サンシャインへの出荷は、以前より継続してヴィアン店のみトマトとブルーベリーの出荷を行いました。今年度の状況としては、7月に出荷した「紅スズメ」、「トマトベリー」、「ブルーベア」の売り上げに関して、トマトは約5割程度しか売れず、ブルーベリーは約7割程度の売れ行きでした。これは昨年度に比べるとかなり売上げが落ちている状況でした。また今年度のトマトの収量が昨年度に比べ少し落ちていることや、良心市や保護者さんの注文が多かった事で、8月初頭以降は何も出荷できていません。

(サンプラザ)

サンプラザ天王店へは今年度も出荷しました。毎年冬場から春頃の期間に出荷しています。主に火曜日と金曜日の週に2回を基本としていますが、突発的な注文にも応えるようにしました。今後も長く取引が行えるよう連絡を取り合っていきます。

(セレクトショップてんこす)

セレクトショップてんこすとは、引き続き定期的な取引が続いており、特にドライトマト、ブルーベリージャム、イチゴジャム、トマトジャムや木工商品を中心に取引をおこないました。大量に売れるということはありませんが、県内外のお客様が利用される店舗ということで、販売としても宣伝としてもよい販路であり、受注の際は優先して応えて行くようにします。

(よどや)

よどやさんとは加工品（ジャム）の取引を継続し、卸値は商品買い取りで定価の七割五分で取引しました。また納品に関しては先方が当園まで取りに来てくれて、条件としては非常によい取引先ですが、今年度は1回（昨年度4回）しか受注がありませんでした。今後も注文が入った際は優先的且つ迅速に対応していきます。

(あじさい園ホームページ：ヤマトフィナンシャル)

ホームページでの販売に関しては、ヤマトフィナンシャル（クレジット・代引き）の注文も不定期ですがありました。対応方法に関して、担当職員以外も扱えるように教えています。今後も多くの注文が入るとは考えにくいですが、当園の重要な広告として状況を見守って行きつつ、注文が入った際は迅速な対応を心がけていきます。

(良心市)

良心市の販売については、固定客も付いており順調に売り上げを伸ばしました。昨年度は割れトマトの格安販売が人気でよく売れていましたが、今年度は正規のトマトに関しても、一般からの電話注文が多く入ってきました。

こぼと作業所の良心市に関しては、やはり割れトマトの格安販売は相変わらず直ぐに売れますが、正規のトマトに関しても、昨年度に買いに来ていただいたお客さんが定客してきています。作業所まで「トマトはないか？」と聞きに来る人もいるとの事です。しかし、現状は数多く出せていない状況であり、今後は多品種を数多く出せるよう調整していく必要性があります。

(埋蔵文化財センター)

埋蔵文化財センターさんとは、約2年前に火きり板の注文を受け取引をしています。当初は継続した取引は無いものと思っていましたが、昨年度と今年度共に、火きり板や火おこし器の受注があり、現在も取引を継続しています。一度に大量の注文や納期もありますが、その分収益もあるため優先して製作を行っています。今後も良好な取引を継続していきたいよう努めていきます。

### 【展開】

来年度も各担当者と協力し販促活動に取り組んでいきます。加工品の販売に関して、売れ行きが良くない店舗もありますが、少量であっても出荷するよう、調整を行っていきたいと考えます。特に価格改定したドライトマトやブルーベリーシロップ漬けに関し、出荷店舗を増やしていくよう検討していきたいと考えます。

食品関係の法律が改正されることもあり必要な情報の収集、商品仕様書や配合仕様書の提出などをしっかりと行い、販売が滞らないようにしていきます。

### II 作業収入（収支計算書等を参照）

トマト/BB	木工	食品加工	その他	総計
2,998,657円	280,284円	248,935円		3,527,876円

### III 作業工賃（作業に従事する者）

1) 時給計算での支給を基本とした。新しく作業に参加した方に対しては一定期間固定給で支給した。基本的に工賃支払は銀行振り込みとした。

支給工賃総額	1,549,860円
--------	------------

### IV 余暇活動・季節行事

木曜日の午後に余暇活動を設定し、利用者の気分転換を図った。

外出、買い物に関しては感染対策の為、制限を設ける事があった。

\*文化活動（刺繍、創作、習字、カメラを自由に選択）

\*スポーツ（フライングディスク、散歩等）

\*買い物

\*外出

活動種目は選択制とし、選択種目の中に作業活動も含めた。

1日外出が実施できるよう、救命救急等の支援技能の向上に努めた。

季節行事はあじさい園と合同で実施した。

作業終了後希望者を対象にフライングディスクの練習を行った。

#### 1) 季節行事

行事の内容によっては積極的に保護者や地域住民の方々の参加を促し、利用者と共に季節折々の行事を楽しんだ。

行	事	日時	備	考
5月行事	端午の節句	5/ 2(火)	本館、第二合同	
高知県障害者スポーツ大会		5/29(日)	ボウリング	
7月行事	七夕	7/ 7(木)	本館、第二合同	

納涼祭	8/18(金)	あじさい・第二・こぼと・小鳩会他 約200名
9月行事 月見	9/ 8(金)	本館、第二合同
スポーツフェスティバル	10/20(金)	あじさい・第二・こぼと 約120名
第二あじさい園忘年会	12/16(金)	忘年会クッキング～ボウリング
クリスマス会	12/22(金)	あじさい・第二・こぼと・関係者他約120名
冬期休業	12/28(木)	～H30.1/3
新年会	1/12(金)	本館、第二合同
節分・もちつき	2/ 2(金)	あじさい・第二・こぼと合同
3月行事 ひな祭り	3/ 2(金)	本館、第二合同

2) 一日外出

5月12日－‘土佐市 潮風公園’でバーベキュー(全員)

11月10日－アスタムランド徳島(アクティブグループ)

11月22日－ゆとりすとパーク大豊(ゆったりグループ)

14 送迎

細木病院コース、高知駅前コース、天王ニュータウンコースの3コースを運行した。

15 管理責任

入園時間から退園時間までを当園の利用者に対する管理責任の時間帯とした。

いったん退園後、再来園する利用者に対しては保護者の了解を得て来る事と、17:00には退園する事を取り決めた。

## 平成29年度 生活介護事業所こぼと作業所事業報告

### 1 事業概要

生活介護事業を実施し、法人サービス理念、基本的運営理念、運営方針を基盤とした事業計画及び、利用者個々の特性やニーズに応じた個別支援計画を作成し、計画的且つ一貫した支援ができるように努めた。又、新商品の開発や販路拡大にも取り組んだ。

営業日は原則月曜日から金曜日。営業時間は9:30～16:00(送迎時間を除く)として運営した。

### 2 法人サービス理念

- 1) 「できるだけ普通に、可能な限り特別に」をサービスの基本とします。

施設を地域の一単位と考え、一般社会と比較されるような特別な生活環境ではない、いわゆる「普通」感覚をもちながら、個別のニーズには可能な限り「特別」で手厚いサービス提供をすることを目指した。

- 2) 利用者心地よい介助技術の習得に努め、心は常にアマチュアであろうとします。

職員は介護等の自主研修等をとおして介助、支援技術の習得に努めた。又、専門性を高めることによって、アマチュアであった時のような本来の福祉の精神が失われることのないよう職員教育を行った。

### 3 基本的運営理念

- 1) 家庭の代替機能、補完機能を第一義としない。

保護者と施設がそれぞれの役割を果たせるような関係づくりをし、利用者が家庭から遊離しないような取り組みを継続して行なった。

- 2) 幅広い福祉システム作りの核としての機能と目的を持つ。

法人の実施するサービスの有効活用を目指し、短期入所、相談支援事業と連携し、施設利用者支援に努めた。

- 3) 話し合える関係を保持する保護者たちが、施設と両輪となり「親の視点」で運営する。

利用者が何を望んでいるのかを把握するために、「親の視点」をとおして保護者と施設が連携を保ちながらの利用者サービスに努めた。

### 4 運営方針

- 1) ノーマライゼーションの原則

障害を疾病や発達障害としてではなく、個々の特徴として位置づけ、日常生活のうえで必要となる面は職員が支援を行なった。また、可能な限り個々の障害の質や程度で区分する事も行なわず全体の中で生活ができるように努めた。

- 2) 個別支援の原則

必要以外の集団サービスは行なわず、個々の特徴やニーズに応じた個別計画を作成し支援にあたった。

3) 家族・地域・施設連帯の原則

第3日曜日（8月は除く）に保護者会をもち保護者と施設の連携を深めた。また、夕涼み会・クリスマス会・生産物の販売などを通じての地域交流を図った。

4) 利用者と職員は、指導「する・される」の関係から、作業環境を含んだより良い生活の受益と提供の原則

利用者はより良い環境を受益する権利があり、職員はより良い環境を提供する義務を持つという認識に立って活動を行うことができた。

5 職員構成

①職員構成

職名 人数	管理者	サービス管理責任者	事務員 (兼務)	管理栄養士 (兼務)	直接処遇職員			医師	合計	調理部門
					生活支援員	看護師 (兼務)	支援員合計			
男	1				2		2		3	業務委託
女		1	1	1	1	1	2		5	
計	1	1	1	1	3	1	4		8	

②職員名及び担当

職 種		氏 名
管 理 者		南 守
サービス管理責任者		入交 沙織
医 師		
事 務 員		井田 陽子 (兼務)
管 理 栄 養 士		森岡 美樹 (兼務)
支 援 員	看 護 師	
		上田 友紀 (兼務)
	男性	小松憲夫
	女性	山村廣美

6 施設利用状況の推移(定員 20 名:基準開所日数 269 日, 利用人数 5,380 名)

項目	計		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	延数	%	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
利用契約者数	95	40	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7
利用実績者数	1739	32	150	142	167	158	167	157	148	135	130	122	128	135
開所日数	244	91	20	21	22	20	22	20	21	20	19	19	19	21

平均年齢：男性-32 歳（2 名） 女性-36.8 歳（5 名）

総計平均年齢：35.4 歳（7 名）（3 月 31 日現在）

平均支援区分：5.1 基準人員配置人数：2.4 人

5 職員研修

①法人内研修

月	研修内容	月	研修内容
4 月	防災対策の基礎知識	10 月	法人リスクマネジメント①
5 月	生活支援について	11 月	法人リスクマネジメント②
6 月	食事支援について	12 月	H29 年度法人職員資格試験
7 月	ユマニチュード①	1 月	個別支援計画作成の留意点
8 月	ユマニチュード②	2 月	
8/9	高齢社会で食べ続けられる支援を包括的に」講師：小山珠美 氏	3 月	権利擁護・虐待について (人を大切にすること)
9 月	摂食・嚥下の基礎知識		

②外部研修

- ・5/19（金）第 1 回防災委員会 昭光園（入交）
- ・5/27（土）食事介助研修 県立大学池キャンパス（入交、小松）
- ・6/23（金）第 1 回施設長幹部職員研修会 サウスブリーズホテル（入交）
- ・7/14（金）第 1 回支援スタッフ部会 昭光園（入交）
- ・10/4（水）高知市保健所 施設内感染対策研修会 総合あんしんセンター（入交）
- ・11/30（木）第 2 回防災委員会 昭光園（入交）
- ・1/18（木）19（金）第 2 回施設長幹部職員研修会 サウスブリーズホテル（入交）
- ・1/31（水）水害・土砂災害への備えに関する要配慮者利用施設の管理者向け説明会  
高知県民文化ホール（オレンジホール）（入交）

6 平成 29 年度重点課題

①利用者のニーズに沿った活動の提供

- ・利用者の個々のニーズが多様化し、ティッシュ作業以外の活動内容を検討し、創作活動、運動支援、余暇活動等を計画し提供した。

②職員（人材）の安定的確保

- ・福祉、介護就職フェア等への参加や、インターネットを利用して求人にも努めた。
- ③職員の資質向上とリスクマネジメント
- ・勤務上の調整がつく限り外部研修に積極的に参加した。
  - ・園内研修により震災対策や救命救急（応急処置）、介助技術の習得に努めた。また、ユマニチュードに関する連続講座もおこなった。
  - ・5/27 高知県立大学にて開催された「高齢社会で食べ続けられる支援を包括的に進めていくために～食事介助スキルを高めよう～」に参加し、食事介助技術を学んだ。  
講師：小山珠美氏（NPO法人 口から食べる幸せを守る会 理事長）
  - ・8/9 小山珠美先生を法人内研修にお招きし「高齢社会で食べ続けられる支援を包括的に」を題材に講義と質疑応答をおこない、摂食障害、嚥下機能の維持、向上を図るための正しい知識を学び、現状の食事支援のあり方、支援技術を見直した。
- ④南海大地震対策の強化
- ・全体研修以外にも、毎月の職員会にて準備品・避難場所・訓練等の状況を確認し合った。
  - ・MCA無線を設置し、毎朝通信訓練を実施した。
- ⑤法人内事業所との連携強化
- ・法人内事業所と連携して職員派遣をおこない、連携強化に努めた。
- ⑥地域との連携
- ・良心市を設置し、販売を通して地域の方との交流を図った。

## 7 健康管理

内 容	日 数	病 院 名
定 期 健 康 チェ ッ ク	月 2 回	こばと作業所上田看護師
一 斉 歯 科 検 診	6/12	広田歯科
内 科 検 診	7/20	横浜ニュータウン内科
一 斉 健 康 診 断	10/12	きんろう病院
インフルエンザ予防接種	11/9	横浜ニュータウン内科

## 8 給食

食事内容：平均カロリー＝687.05kcal 平均品数5品  
給食費用：材料費1食あたり200円

## 9 日課（1日の流れ）

時 間	活 動 内 容
8：30	始業

8 : 4 0	送迎車出発
9 : 3 0	体操、ミーティング
1 0 : 0 0	午前 日中活動（適宜休憩）
1 1 : 0 0	掃除
1 1 : 3 0	昼食開始、休憩
1 3 : 0 0	午後 日中活動（適宜休憩）
1 5 : 3 0	体操、ミーティング
1 6 : 0 0	送迎車出発
1 7 : 3 0	終業

#### 10 運営資金

給付費（生活介護）にて全てを賄う。  
（収支報告書等を参照）

#### 11 作業収入・作業工賃（収支報告書等を参照）

作業収入：162,625 円（ティッシュ：134,869 円 良心市：27,756 円）  
作業工賃：152,840 円

#### 12 会議

職員会・ケース会・個別支援会議・サービス担当者会議・作業内容検討会を随時実施した。

また森グリーンフーズとも食事提供の確認等話し合いをもった。

心肺蘇生法及び誤嚥時の対応訓練については、心肺蘇生法訓練用人形をレンタルし、訓練回数を増やし、全職員が迅速に救命処置を行えるよう繰り返し実施した。

#### 13 日中活動・余暇活動

（ティッシュ作業）

ティッシュの袋詰、袋止め、箱詰め作業を実施。一定の作業量を確保しつつ、作業量を減らし、利用者の特性に合わせてゆっくりと作業をすすめた。

（運動支援）

天気の良い日に1時間程度の散歩を実施。第二、第四金曜日には体力作り教室に参加し、一定の運動量を確保し提供した。

(創作)

利用者の特性に合わせ、新聞紙を用いてエコバック作りをおこなった。  
新聞選び、絵柄合わせ、折り合わせ、接着、持ち手作りの工程を、利用者のペースに合わせ無理なく製作活動をおこなった。できあがったエコバックは良心市の買い物バッグとして利用した。

(園芸)

5月末～6月ポーチラカの苗を花壇に植え、6月～10月に開花。  
11月パンジーの苗を花壇に植え、11月～5月に開花。  
花壇の他にプランターにも花を植え、水やりや草引きなどを定期的におこなった。

(良心市)

第二あじさい園からミニトマトやトマトを仕入れ、選別、袋詰め、販売をおこなった。

(余暇活動)

週一回程度のペースで余暇時間を設け、買い物、外出散歩、誕生日会等を実施した。  
気候の良い時期には一日外出や半日外出も企画し、利用者のリフレッシュに努めた。

日時	外出先
4/27	一日外出：牧野植物園
5/16	一日外出：道の駅四万十とおわ
8/10	半日外出：よさこい祭り見学
10/10	半日外出：コスモス祭り
12/1	半日外出：みかん狩り (土佐の高知のくだもの畑)
3/30	一日外出：牧野植物園 (送別会)

14 季節行事

行 事	日時	備 考
高知県障害者スポーツ大会	5/29	ボウリング
納涼祭	8/19	あじさい・第二・こぼと・小鳩会他
スポーツフェスティバル	10/14	あじさい・第二・こぼと
クリスマス会	12/22	あじさい・第二・こぼと・関係者他
冬期休業	12/28～1/3	

※法人主催行事（納涼祭、スポーツフェスティバル、クリスマス会）

15 実習生

高知市立高知特別支援学校 5.6月（2名）9月（1名）11月（2名）  
高知県立高知若草養護学校 10月.11月（2名）11月.12月（1名）

16 送迎

百石町コース（2台で運行）を運行した。

17 管理責任

入園時間から退園時間までを当園の利用者に対する管理責任の時間帯とした。